

薬草園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2017年
9月6日
第23号



ジュズダマ（イネ科）

園内、池のフェンス沿いで株立しています。熱帯アジア原産の多年草で、日本では野生化もしています。秋に収穫できる果実を包む苞は非常に堅く、指で潰す事はとても無理です（上手に果実を出すことも難しいです）。なお、ジュズダマの栽培種であるハトムギの苞は、手でつぶせますので、それで簡単に区別が出来ます。ジュズダマの果実を取り出して日干ししたものは、センコク（川穀）と云う生薬になり、ハトムギの周皮を除いた果実がヨクイニン（薏苡仁）という生薬になります。ヨクイニンは、イボ取りの民間薬として利用するほか、漢方医学では祛湿薬として関節痛に使用される処方配合されますが、センコクは日本では薬用としては用いられず、お手玉の中に詰めたり、実際に糸を通して数珠（じゅず）を作ったりして遊ばす利用しています（実際の数珠としては利用されません）。

ヤフラン（ユリ科）

園内第一圃場から自然植生区に入る当たりの下草の中に沢山みられます。ジャノヒゲに似ていますが、葉はやや広く、花は淡紫色で、種子は黒紫色に熟します。ヤブラン、ジャノヒゲの仲間は数種類あり、日陰の植え込みとしてよく植えてあるのを見かけます。和名は藪に生え、葉がランに似ているからのようです。根の肥大部をダイヨウバクモンドウ（大葉麦門冬）と呼び、ジャノヒゲの子の肥大部を利用する生薬バクモンドウ（麦門冬）の代用として用いられていました。

今、こんな草木が楽しめます
待ってまーす！！